

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○保護者評価実施期間	R8年 2月 3日		～	R8年 3月10日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	4	
○従業者評価実施期間	R8年 1月24日		～	R8年 1月31日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9	
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日				

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間の情報共有を徹底し、一貫した支援内容の提供をできるようにしていること。	児童についての支援記録を詳細に記録しているため、職員が児童のことをいつでも確認しているようにしている。 正職員・非正規職員どちらも支援記録に携わり、自身の支援の振り返りや支援の質向上を図ることにより、雇用形態を問わず児童のことを把握できるようにしている。	支援時間内に気になることの共有や、支援についての方向性の確認は都度行い、一貫した支援の質を保てるようにしている。各職員がコミュニケーションを取りやすい職場環境につとめ、新入社員を迎え入れることになった際にも溶け込みやすい雰囲気の中、各自が責任感を持って支援ができる環境作りにつとめていく。
2	支援について疑問に思うことや分からないことがあるときには、児発管に指示をおおくなど、相談しやすい環境である。また職員間でのコミュニケーションも活発で、一人で疑問や不安を抱えることがないため安心して子どもの支援にあたることができる。	どんな些細なことでもその都度確認できる職場環境になるよう、普段から何気ないコミュニケーションや気遣い意識して職員同士が接するようにしている。ちょっとした表情の変化や体調の変化等も職員同士が気づき、声かけし合えるようにしている。そのような気遣いが子どものささいな変化に対しても全職員が気づけることにつながっている。	孤立する職員が出ないように各自が他の職員の動きにも気を配りコミュニケーションを後回しにしないようにする。勤務中の不要な私語は慎み、支援や業務に関することに重点を置き、意見の交換ができるようにする。
3	子どもの支援に関わる研修を積極的に受けることができる。	研修等の情報を積極的に入手し、支援に役立つ内容であれば管理者に相談し、個々が興味を持った研修を受講できる。	研修を受けるだけでなく、研修で得た知識を活かし日々の支援で実践する。研修報告書や伝達研修により、研修を受けていない職員にも内容の共有をする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	5年以上の実務経験のある職員が少ないこと。	事業所を開所してからの年数が浅いため、今後そのまま長期的に勤続する職員を安定的に増やす必要がある。	職員が安心して働けるよう、管理者との面談などを定期的に行う。また、都度相談できる関係性を築く。
2	配置基準に則った人員配置はできているが、人員に余裕はないため、イレギュラーな事態が起こったときの対応に追われてしまうことがある。	さらに求人を積極的に行い、HIRAKUの理念に共感する人材の確保をすすめる。	求人媒体の見直し、求人内容の見直しを行う。入職した職員の育成強化。タイミーを利用し人員を配置。
3			